

【論文 (査読付)】

大正期を代表する装身具製造業者

: 村松万三郎、山崎亀吉、天野啓次郎、細沼浅四郎と東京貴金属品製造同業組合について

中島朋子 1

顧客の来店特性と店舗運営に関する一考察～ヘアサロンの顧客を分析事例として～

小泉真人・北島良三 31

断片とコンテクスト 沖縄戦のイメージ形成と1フィート運動 水島久光 43

問題への対処スタイルが大学生のキャリア成熟性に与える影響 浅井千秋・米山実来 63

新明正道の民主主義論の社会的・歴史主義的基礎 飯島祐介 79

エフォートフル・コントロールと自己形成 自己嫌悪感場面への反応に注目して

中島香澄 97

【研究ノート】

南フランス・ロゼール県南部の中世ロマネスク聖堂 (1) 中川久嗣 109

【調査研究報告】

佐渡島での夏期調査報告 (2017年) 杉本 淨 131

【翻訳】

Charlotte M. Brame 著『ドラ・ソーン (*Dora Thorne*)』(翻訳・その15) 堀 啓子 144

【研究交流会報告】

人類学的フィールドワークからみるウズベク女性の刺繍づくり 今堀恵美 151

アメリカ史と動物研究の展開 丸山雄生 165

環境史研究とフィールド調査の可能性についてーカルパチア盆地の河川景観の変遷からー

飯尾唯紀 177

スウェーデンのジェンダー／家族政策に関する国際比較研究の視点 浅井亜希 185

フィンランドの社会政策ー地域研究と比較政治学の視点からー 柴山由理子 195

新聞二極化時代のメディア・リテラシー 笠原一哉 205

知的障害をもつ人への心理療法の可能性 中島由宇 215

【執筆者】

中島朋子	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
小泉真人	東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
北島良三	成蹊大学理工学部情報科学科助教
水島久光	東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
浅井千秋	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
米山実来	厚木児童相談所児童心理司
飯島祐介	東海大学文化社会学部心理・社会学科准教授
中島香澄	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
中川久嗣	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
杉本 淨	東海大学文化社会学部アジア学科准教授
堀 啓子	東海大学文化社会学部文芸創作学科教授
今堀恵美	東海大学文化社会学部アジア学科講師
丸山雄生	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科講師
飯尾唯紀	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科准教授
浅井亜希	東海大学文化社会学部北欧学科講師
柴山由理子	東海大学文化社会学部北欧学科講師
笠原一哉	東海大学文化社会学部広報メディア学科講師
中島由宇	東海大学文化社会学部心理・社会学科講師

【編集後記】

東海大学文学部は、2018 年度から文学部と文化社会学部の 2 学部に変更されました。その結果、アジア文明学科と歴史学科東洋史専攻はアジア学科へ、ヨーロッパ文明学科とアメリカ文明学科はヨーロッパ・アメリカ学科へと改編され、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科とともに文化社会学部を構成する学科となりました。

これに伴い、2018 年度から新たに『東海大学紀要文化社会学部』を電子版で発行することになり、第 1 号には論文（査読付）6 件、研究ノート 1 件、調査研究報告 1 件、翻訳 1 件の他、文化社会学部が学部の FD 活動の一環として開催している研究交流会で報告を担当された先生方による報告の記録 7 件を掲載することになりました。また、これまで『東海大学紀要文学部』に 14 回連載されてきた堀啓子先生による Charlotte M. Brame 著『ドラ・ソーン(*Dora Thorne*)』の翻訳は、15 回からは『東海大学紀要文化社会学部』に掲載されることになりました。

発行の準備に手間取り、募集から投稿までの期間が極めて短かったにも関わらず、非常に充実した内容の原稿をご投稿いただいた先生方に感謝申し上げますとともに、論文の査読にご協力いただいた先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

東海大学文化社会学部紀要委員会

委員長 飯塚浩一 文化社会学部広報メディア学科教授、文化社会学部長

発行者 東海大学文化社会学部 飯塚浩一

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

Tel 0463-58-1211 (代)

The Bulletin of the School of Cultural and Social Studies

Tokai University

Issue 1, February 2019

【Articles】

- Japanese Leading Jewelry Makers of the Taisho Period and the Establishment
of the Tokyo Precious Metal Products Manufacturing Union 1
NAKASHIMA Tomoko
- A Study of Analyzing Customer Purchase Behavior and In-store Managements 31
: In Case of Customer Analysis in Hair-salon Stores
KOIZUMI Masato and KITAJIMA Ryozo
- Fragment and Context : Image Formation of the Battle of Okinawa 43
and "1 Foot" Movement
MIZUSHIMA Hisamitsu
- Coping Style with Problems of Undergraduates and Its Influences on their 63
Career Maturity
ASAI Chiaki and YONEYAMA Miki
- The Sociological Foundation and the Historicism of SHINMEI Masamichi's 79
Argument for Democracy
IIJIMA Yusuke
- Effortful Control and Self-development : The Responses to Feelings of Self-Disgust 97
NAKAJIMA Kasumi

【Research Notes】

- Les Églises Romanes dans la Lozère; Autour de la Gorges du Tarn 109
NAKAGAWA Hisashi

【Research Report】

- Report on the Summer Research Program on Sado Island in 2017 131
SUGIMOTO Kiyoshi

【Translation】

- A Translation of *Dora Thorne* by Charlotte M. Brame, 15 144
HORI Keiko

【Research Presentation 】

- The Uzbek Women's Embroidery work through the Anthropological Fieldwork 151
IMAHORI Emi
- American History and the Progress in Animal Studies 165
MARUYAMA Yuki
- Environmental History and Field Research : Historical Riverscape of the 177
Carpathian Basin
IIO Tadaki
- For Comparative Study on Gender / Family Policy in Sweden 185
ASAI Aki
- Social Policy in Finland : From the Viewpoint of Area Studies and Comparative 195
Politics
SHIBAYAMA Yuriko
- Media Literacy amid Polarization in Journalism 205
KASAHARA Kazuya
- The Possibility of Psychotherapy for People with Intellectual Disabilities 215
NAKASHIMA Yu

『東海大学紀要文化社会学部』投稿規程及び執筆要領

1. 投稿規程

1) 投稿資格について

- ・ 第1執筆者として投稿する資格があるのは、文化社会学部の専任教員及び特任教員とする。なお、学内外の研究者等が共同執筆になることは、これを妨げない。
- ・ 文化社会学部の専任教員及び特任教員以外の者が投稿を希望する場合は、投稿を認めるか否かを文化社会学部紀要委員会において審議し、文化社会学部長の承認を得て結果を本人へ連絡する。

2) 投稿原稿について

- ・ 未公開の学術論文、研究ノート、調査研究報告、その他（訳註、解題、翻刻、翻訳、教授法研究、等）の投稿を受け付ける。
- ・ 投稿を希望する者は、文化社会学部紀要委員会から周知された申込要領に沿って、申込〆切日までに投稿申込を行う。
- ・ 投稿申込を受領された者は、投稿〆切日までに、文化社会学部紀要委員会から周知された執筆要領及び提出要領にしたがって原稿を執筆・提出する。
- ・ 文化社会学部紀要委員会は、投稿原稿の採否・掲載ジャンル・掲載順等を決定し、必要に応じて修正等を依頼する。
- ・ 掲載が決まった原稿が多数の場合、一部の原稿の掲載を次号へ送ることがある。

3) 著作物の電子化と公開について

- ・ 掲載された著作物の著作権は、執筆者が有する。
- ・ 掲載された著作物の執筆者は、当該の著作物に関する複製及び公衆送信を文化社会学部紀要委員会に対して許諾したものとみなす。同委員会が複製及び公衆送信を第三者へ委託した場合も同様とする。
- ・ 掲載された著作物は、東海大学機関リポジトリを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

4) その他

- ・ 抜刷の制作を希望する場合は、執筆者がその実費を負担する。
- ・ 掲載された論文等を自身の著作等に転載す

る場合は、文化社会学部紀要委員会へ連絡する。

2. 執筆要領

1) 形式

- ・ 使用言語は、原則として日本語または英語とする。（以下、使用言語が日本語の場合を想定して記載する。日本語以外の場合は、日本語での執筆要領に準じるものとし、詳細は文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 原稿はテンプレートに入力し、電子データを提出する。
- ・ 原稿は縦組みでも横組みでも可とする。
- ・ 注は本文末尾または章ごとに掲げる。本文末尾に掲げる際には、番号は全体を通し番号とする。
- ・ 原稿には通し番号（ページ数）を付す。
- ・ 図及び表はテンプレートに沿って本文中に入力する。また、図及び表には見出し（例：表一、図一、など）を付す。
- ・ 論文及び研究ノートは、英文タイトル、執筆者名の英文表記、Abstract（単語数100語程度）をテンプレートの該当箇所に記載する。
※ 執筆者名の英文表記は、原則として IIZUKA Koichi の表記方法とする。

2) 分量

- ・ 原則として総字数は3万2000字以内（注を含める）とする。（総字数が極めて大きくなる場合には、扱いについて文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 図及び表は総字数には含めない。

3) 体裁

- ・ 原稿の中で表記を統一する。
- ・ 原稿の中で代名詞、副詞、接続詞、助動詞、助詞の表記を統一する。
例) 敢て=あえて、未だ=いまだ、及び=および、のように、原稿の中で表記が分けないようにする。
- ・ 和文は全角、欧文は半角で記述する。

※本規程及び要領の制定・改訂・廃止は、文化社会学部教授会の承認をもって行う。

(2018年11月21日制定)